



「年越し支援・コロナ被害相談村」開設に至るまでの歴史

2020年3月以降、コロナ禍は人々の生活に大きな打撃を与え続けています。私はコロナ禍の労働問題に関するホットライン活動等に参加する中で、電話と感染対策を両立させることが可能であるのか、と悩むようになりました。そこにヒントをくれたのが2020年12月に日比谷公園で開催された「なんでも相談会」でした。そこで医療従事者により十分な感染対策を講じた上で相談会が開催され、食料等の支援も行

若手チャレンジ基金制度受賞者インタビュー 年越し支援・コロナ被害相談村

(広報室嘱託 李桂香)

相談もできずに困っている人も多いだろうから対面での相談活動もやるべきではないか、特に年末年始は支援活動が必要ではないか、と具体的な活動についてお話を伺いました。



外国语に対応できるスタッフを手配し、医師も常駐した

始、東京都が借り上げたビジネスホテルを一時宿泊場所として提供

肌で感じたコロナ禍の深刻な影響

し、なんとか開村すること

利用もあり、女性の窮屈が

外で運営しています。問

題意識を持って相談会の運

営に参加した人が、支援の

手法や相談会を見聞きし

もの糧として、新たに支

援を取り組みにつなげるこ

と良い循環が生じていま

す。これも活動を続けてき

た成果だと感じています。

JFBA PRESS Vol.169

相談の多くは、職業失業

い、再就職もままならず、

貧困から抜け出せない状況

がありました。約65%の人

が携帯電話を持っていな

い、もしくは、料金の滞納

で使用できない状態でし

きました。携帯電話がないと就職

にもつながります。

年29日・30日、翌年1月2

日の3日間で実施しまし

た。事前の広報が十分で

いたので、年末年始の住まいを確保することで年末年始の住まいを確保することができます。また、相談者ができ、また、相談者が年越し支援・コロナ被害相談村に対するその後の支援にもつながります。

こうして、TOKYOチャレンジネット事務局の前にある新宿区立大久保公園で相談村を開くことを決めました。

この日間で延べ334人という、予想を大きく上回りました。参加者の感染リスクを抑えつつ、支援する相談活動ができる組みは、私のやりたかったことのイメージと重なったのです。

また、時期を同じくしてコロナ禍で住居を失つた人などに対し、年末年始は年明けに生活保護の申請を受けました。相談村では、報道だけではなく、住居の賃貸活動だけでなく、住居の賃貸契約も難しくなります。

その後の展開へ支援に終わりは

相談村を立ち上げた当初、相談会開設の1週間前で、大久保公園で相談村を開くことを決めました。

相談者は30代～60代が多く、3分の1が無収入、所持金が千円以下の方が3割弱と、極めて逼迫していました。

相談会はすべてボランティアで運営していました。このた

め、2021年の年末始まりで社会の困難な現実を打開できる存在だと思います。

相談の多くは、職業失業の深刻な影響

ができました。年29日・30日、翌年1月2日の3日間で実施しました。事前の広報が十分で

いたので、年末年始の住まいを確保することができます。また、相談者ができ、また、相談者が年越し支援・コロナ被害相談村に対するその後の支援にもつながります。

こうして、TOKYOチャレンジネット事務局の前にある新宿区立大久保公園で相談村を開くことを決めました。

この日間で延べ334人という、予想を大きく上回りました。参加者の感染リスクを抑えつつ、支援する相談活動ができる組みは、私のやりたかったことのイメージと重なったのです。

また、時期を同じくしてコロナ禍で住居を失つた人などに対し、年末年始は年明けに生活保護の申請を受けました。相談村では、報道だけではなく、住居の賃貸活動だけでなく、住居の賃貸契約も難しくなります。

その後の展開へ支援に終わりは相談村を立ち上げた当初、相談会開設の1週間前で、大久保公園で相談村を開くことを決めました。

相談者は30代～60代が多く、3分の1が無収入、所持金が千円以下の方が3割弱と、極めて逼迫していました。

相談会はすべてボランティアで運営していました。このため、2021年の年末始まりで社会の困難な現実を打開できる存在だと思います。

相談の多くは、職業失業の深刻な影響

ができました。年29日・30日、翌年1月2日の3日間で実施しました。事前の広報が十分で

いたので、年末年始の住まいを確保することができます。また、相談者ができ、また、相談者が年越し支援・コロナ被害相談村に対するその後の支援にもつながります。

こうして、TOKYOチャレンジネット事務局の前にある新宿区立大久保公園で相談村を開くことを決めました。

この日間で延べ334人という、予想を大きく上回りました。参加者の感染リスクを抑えつつ、支援する相談活動ができる組みは、私のやりたかったことのイメージと重なったのです。